

地域の垣根を越えた、広域化で「世界かんがい施設遺産」の里を守り抜く

熊本県球磨郡あさぎり町くあさぎり町広域協定

取材・文／宗像幸彦 撮影／松木雄一 写真提供／あさぎり町農業支援センター、水土里ネット百太郎溝、水土里ネット幸野溝



(上)左から、水土里ネット幸野溝 事務局次長・富田道孝さん、水土里ネット幸野溝 書記・山村涼太さん、水土里ネット百太郎溝 星原鮎美さん、あさぎり町広域協定 会長・西村義孝さん、あさぎり町農業支援センター・皆越さくらさん、水土里ネット百太郎溝 事務局長・市田秀樹さん。(右)資源向上支払交付金の一環として、各地域で農業用水路の更新を行っている。(下)あさぎり町では、水稲のほか、たばこや施設栽培も盛ん。



(左から)水土里ネット幸野溝 富田道孝さん、あさぎり町広域協定 西村義孝さん、水土里ネット百太郎溝 市田秀樹さん。

広域化によって事務作業が一元化され、期間と工事経費が大幅に圧縮

熊本県東南部に位置する球磨郡あさぎり町は、球磨盆地に囲まれた自然豊かな農村です。町内には、江戸時代に建設されたといわれる農業用水路、百太郎溝と幸野溝が引かれ、両者は平成18年には農水省の「疏水百選」に、平成28年には国際かんがい排水委員会（ICID）認定の「世界かんがい施設遺産」に認定されました。

こうした歴史ある施設を含む町内全域の農地や農業用水の維持管理に努めているのが、65集落から構成されるあさぎり町広域協定です。認定面積2461・52ha中、区域内の保全管理対象施設は開水路及びパイプライン569・4km、農道237・9km、ため池2カ所。参加団体は185団体、構成員は約2600名にも及びます。

現在、あさぎり町内には、百太郎溝、幸野溝、中球磨、上村、錦町の5つの水土里ネットがあります。協定が設立される以前は地域ごとに事務作業を行い、それぞれで多面的機能支払制度を活用してい

ました。しかし、水路の更新や農道の舗装工事といった長寿命化を図るには、集落ごとではなく、各水系ごとに計画した方が効率的です。そこで地域の垣根を越えた広域での取り組みを進めるべく、平成27年には5つの水土里ネットに、水土里ネットのない地域も加えたあさぎり町広域協定が設立されました。「広域化にあたっては、反対意見もほとんどありませんでした。農家自体が減っていて、高齢化が急速に進む中では賢明な選択だったと確信しています」と語るのは、あさぎり町広域協定の西村義孝会長。

広域化により、長寿命化に必要な工事が水系ごとに実施可能となり、1つの路線に数年かかっていたものがわずか1年で完成するほど劇的に改善。資材費の削減はもちろんのこと、地域の垣根を越えた予算の重点配分により工期が短縮できるため、仮設用地の確保も1年で済む、といった利点も生まれました。さらに、こうした活動に伴う書類作成や会計などの事務作業が一元化されたことで、各集落の負担も軽減され、共同活動や農作業に集中できる環境になりました。

雑草や外来種対策、水質調査、地震対策など多彩な活動を行いSNSで絶えず情報発信！

現在、あさぎり町広域協定では、多面的機能支払交付金を活用し、さまざまな取り組みが行われています。

「農地維持支払交付金」では、畦畔やため池の草刈り、水路の泥上げ、農道の砂利補充などの基礎的な活動が展開されています。

「資源向上支払交付金」では、地域ごとに特色を活かした取り組みが展開されており、中でも顕著な活動は、水土里ネット幸野溝が先駆けて行った防草シートの設置です。防草シートはチガヤ、ススキといった強壮雑草の突き上げを抑制する効果があり、一度設置したら草刈り作業が軽減できるだけでなく、害虫被害や不法投棄、ポイ捨ての防止にもつながります。「これと並行して、防草効果のある芝桜の植栽シートを設置したところ、春には色鮮やかな景色を見せて地域住民にも喜ばれ、景観形成にもなっています」と水土里ネット幸野溝の富田道孝事務局次長は語ります。

一方、水土里ネット百太郎溝では、「資源向上支払交付金」の一環として外来種の駆除を実施。稲に被害を及ぼすジャンボタニシの卵をそぎ落とすのが田植えシーズンの恒例作業になりました。また、毎年夏には地元の小学校のPTAと連携して、百太郎溝の水質調査を行い、子どもたちに水への関心や愛郷心を植え付ける活動も行っています。

「2016年4月に発生した熊本地震は同じ県内に住む我々にとっても大きな教訓となりました。そこで農地維持、資源向上の共通活動として年度初めには点検機能診断と災害復旧の事例を学ぶための講習を行っています」と語るのは、水土里ネット百太郎溝の市田秀樹事務局長。こうした活動の様子は、フェイスブックで絶えず情報発信しています。「多面的機能支払交付金抜きで町の活性化はありえない。このまま組織も制度もずっと続いていくことを願ってやみません」と西村義孝会長は語ります。

「農地維持支払交付金」での取り組み



高土手で草刈り作業は、農地維持支払交付金の中でも割合の高い用途のひとつ。毎年春に約160回にわたって行われる。

「資源向上支払交付金」での取り組み



草刈りをしにくい斜面に防草シートを設置。防草シートが強壮雑草の突き上げを抑制し、草刈り作業の軽減だけでなく、ポイ捨て防止など、景観維持にもなっている。



田植え直後の稲を食いちぎるなどの被害をもたらす外来種のジャンボタニシを駆除。被害が多いと、収穫に影響することもある。

お問い合わせ あさぎり町広域協定事務局
百太郎溝土地改良区 TEL:0966-42-2075
幸野溝土地改良区 TEL:0966-43-2062